

2017年(平成29年)9月4日



猪狩社長

いわき市立総合磐城共立病院はこれまで熱源の燃料として重油を使用していた。十数年前、市に何度かガス活用の提案を行っていたが、採用には至っていないかった。その後、建て替え計画の情報があり、さら

に、古川ガスとENAC(当時)による大崎市民病院でのエネルギーサービス事業の取り組みを知り、TGESに連絡を取って、協

常磐共同ガス 猪狩謙二社長

協働作業の好循環

力して取り組むことになった。プロポーザルでは、電力会社系企業の提案と競うことになったが、TGESのエネルギーサービスの実

績、ノウハウなどが高く評価されて選定された。コーシエネの導入に当たり、6kmの中圧管を病院まで整備する必要があった。

国道をまたぐ工事などもあったが、導管工事も含め、コーシエネ導入に関する工事を全てTGESに対応してもらったのはありがたか

った。病院の設備管理業務をTGESの下で新たに手掛けることになり、協働作業の好循環が生まれた。

今後、他の病院に対してもエネルギーサービス、コーシエネの導入、燃料転換などを提案し、実績を増やして、地域医療の発展につなげていきたい。今回、将来につながる盤石な協働体制が構築できた。今後、これらをさらに強固なものにしていきたい。(談)